




影で遊ぼう 風かおる丘幼稚園（愛知県名古屋市） [3、4、5歳児]

影に関心をもって遊ぶことで“影”に不思議さや疑問を感じ、興味を深めながら発見や試行錯誤を重ね、豊かな体験をした。（以下は5歳児の姿を中心にまとめた事例です）

	遊びの状況	子どもたちの具体的な言動	
影ふみ鬼	何回か影踏み鬼ごっこをしている中、雲がかかってきて足元の影が薄くなり、見えにくくなって戸惑う様子が見られる。影踏み鬼ごっこをした後、雲がかかったり、なくなったりして影が薄くなったり、濃くなったりする。子どもたちは空を見上げる。	M児：あれ？ 影がないよ H児：どこへ行っちゃったのかな？（周りを探す） C児：雲に隠れちゃったのかな？ I児：あっ、影が出てきた！ 教師：どうして影が出てきたのかな？ E児：お日様が出て明るいからじゃない！？ B児：太陽がないと影がなくて、太陽があると影があるんだ。	
影絵あそび	晴天日、園庭の壁に影が映ることを利用して、ボールや大型ブロックなどいろいろな形の物を用意して影絵をつくる。また、影で自由に遊んでみる。	・ウサギのペープサート3個で遊ぶ ウサギの形が映る。重ねると1つになる。 ・ボールやスタンプ台を写す ボールは丸いがスタンプ台は丸くない。 ・ゾウのジョウロ 鼻が映らない時がある。 ・自分の影 長くなったり変な形になったりする。	

【影で自由に遊んでいる中、影の色について、なぜ黒なのか疑問を感じた子どもの声】

影が黒いことに気付き、「影はいつも黒なの？」「黒いものは黒じゃないのかな？」「じゃあ赤は赤？ 白は白だよ！」「違うよ、赤だって白だって影は黒だよ！だって僕の影が黒だもん」と話題になり、いつも黒なのか疑問に思う

<黒、白、赤の画用紙で影を映してみる>

A児：あれ？ やっぱ黒だった・・・。(やっぱり！)

保育者：影は黒だったねえ。

G児：じゃあ、白い紙になにか絵を描いてみたら？ 絵が映るかも？(創造力)

<白い紙にウサギの絵を描いてみる、影を映してみる>

G児：あれ？ ウサギはどこへいったの？

M児：鏡なら映るのにね～。(創造力)

H児：なんで影って黒いの？

A児：じゃあ、紙に色を塗ったら映るんじゃないの？(予測力)

保育者：じゃあ塗ってみよう！

<ウサギの絵に色を塗ってみて影を映してみる>

M児：やっぱり映らないね～。(やっぱり！)



<その後、日時計作りが展開した>

考察 影で自由に遊ぶ子どもたちの疑問から始まったいろいろな場面設定では、予測する力が見られ、その予測に基づいて考え、さらに「～だったら」という想像に及ぶ繰り返しが見られ、科学する心を育てるフローチャートのパターンが起きていた。そして、四角の画用紙を持って色を調べている時に、紙の角度を変えると影が細くなることや地面に近づけると影が小さく、上にあげて遠ざけると影が大きくなることにも気付いた。



みどころ

子どもたちの疑問や発見から展開している“影の遊び”なので、すぐに試す行動に結び付き、興味が深まっていく様子が見られます。子どもが自分たちの考えを巡らして試行錯誤できるような、子ども自身で操作できる環境が大切なことがわかります。